



まんがの神様 手塚治虫

「鉄腕アトム」「ジャングル大帝」などで世界的に有名な手塚治虫は、一九二八(昭和三年)十一月三日に大阪府豊中市で生まれ、五歳から二四歳まで兵庫県宝塚市で過ごし、ました。

治虫は小学生の頃、背が低く眼鏡をかけ運動も苦手でした。髪はくせ毛だったので「ガチャボイ(髪の毛がガジャガジャの頭)」というあだ名でからかわれました。しかし、仲の良い友達の影響で、昆虫、科学、天文学などにも興味を持つようになりました。

治虫は、家の広い庭や周囲の豊かな自然環境の中で、昆虫採集に夢中になりました。治虫という筆名も、甲虫(こうちゅう)の「オサムシ」にちなんで小学四年生のときに名付けたそうです。

彼は幼いころから見よう見まねでまんがを描いていました。特に小学四年生から一生懸命にまんがの練習をしました。五年生の頃、ノート一冊分のまんがを描いて学校に持っていった時、担任の先生に取り上げられてしまいました。治虫は、叱られると思いましたが、ノートは職員室で回し読みされ好評を博しました。それ以後、先生たちからもまんがを描くことを黙認されました。天才的に絵・まんがが上手だったので、クラスからも一目おかれる存在になり、いじめっ子もまんが目当てに治虫の家を訪れるようになり、いつしかいじめはなくなり、誕生日には家に二〇人も友人が集まるほどでした。

治虫の父はモダンな人で、新しい物が大好きでした。家の中には、当時珍しかったカメラや手回し映写機があり、チャップリンの喜劇映画、ディズニーのアニメ映画を観ることもできました。治虫は小学二年生から中学にかけて、家でこれらにふれて好奇心を刺激され、イメージネーションを高めていきました。

母は文子といい、優しい人でした。幼少期の治虫に「のらくろ」シリーズを始め、二〇〇冊ものまんが本を買い与えただけでなく、登場人物ごとに声を使い分けて治虫にまんがを読み聞かせていました。治虫が寝る時は、本を読んであげたり、パラパラまんがを本のはしに自分で描いたりして楽しませてくれました。彼は母といっしょに宝塚歌劇や映画も観にいきました。

治虫は、学業成績も優秀で、大阪大学の医学部へ進学しました。しかも、まんが家として大学の時にデビューしました。二足のわらじを履きながら、大学も卒業しましたが、先生に「君は、このまま勉学を続けてもろくな医者にはなれん。医者はおきらめてまんが家になりたまえ」と言われました。治虫は悩んだすえ、母親に相談しました。母は「あなたの本当にやりたい道に進みなさい」と言ってくれました。この一言でふっきた彼は、まんが家の道一本にしぼりました。

治虫がまんが家として世間に認められるきっかけとなったのは、ベストセラーになった「新宝島」(酒井七馬原作)という長篇まんがでした(一九四七年)。現在でも見劣りしない大胆な構図は、読者に衝撃を与えました。治虫は「ジャングル大帝」でも日本中の人気を博しました(一九五〇年)。さらに「鉄腕アトム」「リボンの騎士」と、作品を次々にヒットさせました。

二十四歳(一九五二年)の時、医師の国家試験に受かりました。そして東京に仕事を移し、新宿

区四谷(八百屋の二階)に下宿しました。翌年、豊島区椎名町にあった「トキワ荘」(現在豊島区の記念碑が建つ)へと住まいを移しました。治虫が最初の入居者でした。たったの四畳半でトイレは共同でした。しかし、治虫に憧れた人々が集い、アパートは活気に満ちていました(余談ですが、治虫は後輩の藤子不二雄の二人に部屋を無料で譲りました)。

治虫には二つの顔があります。それは、「まんが家」と「アニメーター」の顔です。マンガ家としては、「ストーリーマンガ」とよばれるまんが表現の確立に努めました。ストーリーマンガは、「一コマ・四コマまんが」に対して、数ページ以上にわたる物語性の強いまんがです。今のまんがのほとんどはストーリーマンガです。ストーリーマンガの発祥は、通説では、治虫が発表した「新宝島」だとされています。治虫は、「本当のストーリーマンガを、わたしなりに示したいと思う」と語り、ストーリーマンガの引張り役になりました。

治虫によるストーリーマンガの説明では「映画的手法」という表現が使われました。「のらくろ」が舞台のお芝居を観る感じだとすれば、手塚作品は、映画やテレビを見る感じだといわれます。例えば、「新宝島」は、①映画のようにストーリーが整っています。②クローズアップや場面展開がたくさんあります。③構図は、上下・斜めと変化のある描き方をしています。これらの特徴は、それまでのまんがには無く、治虫による「あたらしい手法」でした。

アニメーターとしては、一九六三年、日本初の三〇分テレビアニメシリーズ「鉄腕アトム」の放送を成功させ、テレビアニメの制作に大きな影響をあたえました。「ブラック・ジャック」「三つ目がとおる」などもアニメ化してヒットさせました。

治虫の描いた作品には、命を大切に思う気持ちと未来への夢がたくさんつまっています。医師を志したことが、まんが家・アニメーターとしての見識を広げたのでしょう。

彼は人間の心を奥深く描き、さまざまな心情に応じた作品を発表しました。治虫の作品で元気を取り戻した人も大勢いると思います。しかも彼は、戦争・自然破壊・犯罪などを引き起こした人間の心のエゴも描いています。さらに、病んだ世の中を治すことのできるきれいな心と思いやりのあるキャラクターを物語に登場させています。大作「火の鳥」では、命の尊さ、人間の業が、治虫の独特な思想を根底に壮大なスケールで描かれています。

治虫が四三年間のまんが家生活でうみだしたまんがの原稿は、約十五万枚、作品タイトルの数は七百あまりもあります。

人間愛にあふれた「まんがの神様」手塚治虫は、一九八九年(平成元年)二月九日に亡くなるまで作品を発表し続けました。

○私たちは手塚治虫から、何を学ぶか。

何にでも興味を持ち、それらに強い好奇心で臨み、新しいものを創造しようという心を持つ。

〈参考文献〉 子どもの伝記「手塚治虫」(ポプラ社)

アトムポケット人物館(講談社・監修 手塚プロ)

《参考資料》

◇ 漫画やテレビなどで活躍している鉄腕アトムは、高田馬場の「科学省」で誕生しました。人間と同じ温かい心を持ち、純粋で心優しいアトムは、正義感が強く、みんなの永遠のヒーローです。新宿区は、アトムの誕生日、二〇〇三年四月七日にアトムを『新宿未来特使』に任命しました。そして、「鉄腕アトム」の記念絵画を区役所本庁舎三階の区長室入口に飾っています。その絵は『夢と未来への希望』をイメージし、新宿のまちをバックに力強く大空を飛ぶアトムを描いています。

『新宿未来特使』・鉄腕アトムは、地域のイベントや新宿区の行事に

参加し、地域でも活躍しています。二〇一〇年四月六日には、同じ二〇〇三年生まれの子どもたちの入学を祝うために「新宿区特別児童」として、地元戸塚第三小学校の入学式にも参列しました。

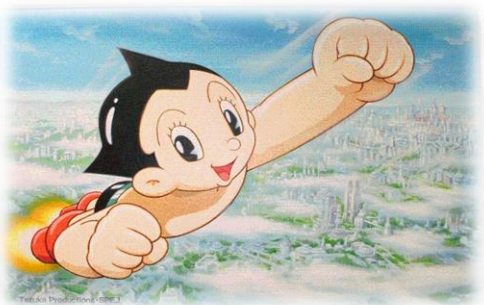
◇ 左記「区長の部屋」記事参照 (©新宿区)

四月六日(火) 午前一〇時二〇分〜鉄腕アトムの「新宿区特別児童」任命式(戸塚第三小学校)



「二〇〇三年生まれの子どもたちも今年入学式を迎えたことから、区ではこの日、アトムを『新宿区特別児童』に任命しました。

この日のアトムは新調された学生服に身を包み、私も初めて見るピカピカの「学校バージョン」。



よく似合って、とてもかっこよかったですよ。戸塚第三小学校の子どもたちの「アトムくん！」という元気な呼びかけで、テーマ曲に乗って体育館に入場。「新宿区の小学校によるこそ。学校ではたくさんのお友だちをつくって、楽しく元気に行事に参加し、地域のこと、社会のことを学びましょう」と私からアトムへ任命書を手渡しました。そして、新入生たち一人ひとりとハイタッチ！し、これから学ぶ教室で先生のお話を聞きました。子どもたちは「アトムと握手できてうれしい。また学校で会いたい」。保護者の方も『アトムと一緒に入学式は思い出に残ります。これらの交流が楽しみです』と感想を話してくれました。

アトムは今までも『新宿区未来特使』として区のイベントに参加したり、商店街を中心としたアトム通貨(地域通貨)などで活躍してきました。地元の皆さんや、校長先生をはじめとした学校の思いが実現し、今後、学校にも活躍の場が広がりました。私は、アトムが人と人とのつながりや環境の大切さについてメッセージを発信していくことを期待しています。そして、子どもたちがアトムとの交流を通じて、友だちへの思いやりや地球環境への関心を高めてくれることを願っています。」

◇「世界の平和」「人権問題」にも積極的に取り組み、環境問題等にも貢献している「鉄腕アトム」は、子どもたちの健やかな成長に大きな役割を果たしてくれています。また、**夢と未来への希望**を与えてくれる夢先案内人として活躍しています。

新宿区内の小学校では、戸塚第一小学校、第二小学校、第三小学校でアトムの肖像画が使われています。

◇ **アトム通貨**は、二〇〇四年、鉄腕アトム誕生の地、高田馬場を中心とした地区で始まった地域通貨です。手塚プロダクションと早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター、地元商店街(九団体)の三者による、街活性化の事業として始められました。

手塚治虫の著書『ガラスの地球を救え』をもとに四つの理念「**地域**」「**環境**」「**国際**」「**教育**」で活動しています。各支部の運営は、ボランティアとして行っています。商店街、NPO、大学等が実行委員会を組織し、実行委員会が地域通貨券を発行します。商店街、行政、学校などがアトム通貨の理念にそくしたプログラムを展開し、参加者に通貨を配布します。

アトム通貨は商店が積極的に配布していますから、誰でも入手できます。例えば、商店街では、飲食店でお客様がマイ箸を持参したり、レジ袋を断ったりしたときなどに、アトム通貨をもらえます。行政やNPOなどは、打ち水、エコキャップ、リサイクル品の回収、清掃活動、ラジオ体操、お祭

り参加など、地域でのイベントを活発に行いアトム通貨を配布しています。アトム通貨は、人々との関わりから自然と生まれる「ありがとうの気持ち」。あなたの「誰かに何かをしてあげたい」「何かをしてくれた人へ感謝の気持ちを伝えたい」という思いを応援しています。

◇ 通貨は全部で三種類

アトム通貨発足から三年間は一〇馬力、一〇〇馬力、二〇〇馬力が流通していました。二〇〇七年度の第四期より二〇〇馬力が廃止され、代わりに五〇馬力が誕生しました。通貨の色は、それぞれ「青」―水「赤」―生命「黄」―太陽「緑」―自然を表しています。デザインは馬力ごとに異なります。また、次期には絵柄を一新し、毎年異なるデザインの通貨が流通されます。通貨の使い先は地元商店街です。商品購入、飲食の際に一馬力一円相当で使用できます。商店は使用されたアトム通貨を実行委員会事務局に持参し一馬力一円で換金します。

